

日本郵船

スウェーデンの  
新コンソーシアム

# 6隻の豪華クルーズ船建造計画

スウェーデンの新しいコンソーシアムは二月二十八日、九億ポンドを投資して六隻の豪華クルーズ船を建造する計画を明らかにした。ロイスリストが報じているもので、このコンソーシアムは、一般の公開会社と海員組合とのコンビで、このほどマイアミに本社を置くカーニバル・クルーズ・ラインズ(CCL)と協定を結び、まず三隻の新造船

を十六年間の裸用船に出す。第二段階として、さらに三隻を建造する。この六隻の五万総トン型船は、三百五十室のスィート・ルームを持つ最高級船をめざす。海員組合側は、六隻すべてが連航されると職員、部員約千二百人の職場が生まれるとしている。

CCLは、経済性を売りものに急速に主要クルーズ船社として脚角を現したが、昨年、取締役会は今後、他船社の買収によりクルーズ船の最高級化をめざすことを決めている。しかし、買収する適当な船社がないことから、代案としてまず三隻の四方総トン型を投入すべく「プロジェクト・ティファニー」と銘打った計画を進めることになった。これについてCCLのスポークスマンは、協定には署名しているがどんな船を投入する

かという前に全体の計画を定める具体的説明が必要であり、ミッキー・アリソンは、当初の船社買収案は当然として棄ててはいないと述べている。一方、スウェーデン側はこのアメリカ式の計画には同調せず、コンソーシアムとしてオクタノバ・インカーナショナル・A/B、フリスク・アンド・フリスク、Bのアドバイスのもと、フィンランドのワルチラ、西島のマイヤー・ベルフト、フィンスのセント・ナザレのシェンテール・デル・アトランティック船等と接触、適切なデザインの開発に入っている。ちなみに、CCLは現在、七隻を主にカリブ海に配船しており、ワルチラに三隻の新造船(各船二億ポンド)を発注している。